

新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。
世界的な東洋史学者「内藤湖南」、
十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」、
女性民俗学の大家「瀬川清子」の三名を常設展示とし、
さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

立山家の人々（第四郎・林平・廉吉） 和井内貞行 没後 100 年

2022.4.1 ～ 2023.3.12



鹿角市先人顕彰館

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎 3 番地 2

Tel 0186-35-5250

E-mail senjin@ink.or.jp

◆第 12 次展示 H15.12－H16.11			
小松 五平 (1891-1972)	鳴子旧系こけしを継承した名工	(大 湯)	
川村 薫 (1897-1976)	果樹指導と郷土新聞の草分け	(花 輪)	
◆第 13 次展示 H16.12－H17.11			
相川善一郎 (1893-1986)	彫塑・彫刻など文化活動に貢献	(花 輪)	
馬淵テフ子 (1911-1985)	空駆けた女流飛行家	(八幡平)	
◆第 14 次展示 H17.12－H18.11			
川口 月嶺 (1811-1871)	盛岡藩を代表する絵師	(花 輪)	
泉澤 織太 (1777-1840)	学問のお師匠様泉澤家	(毛馬内)	
泉澤 牧太 (1778-1856)	〃	(毛馬内)	
泉澤 恭助 (1806-1870)	〃	(毛馬内)	
◆第 15 次展示 H18.12－H19.11			
佐藤要之助 (1859-1892)	鹿角りんごの礎を築いた父子	(花 輪)	
佐藤良太郎 (1878-1912)	〃	(花 輪)	
佐藤 良雄 (1906-1977)	カザルスのチェロを日本に広めた	(花 輪)	
◆第 16 次展示 H19.12－H20.11			
小田島艸子 (1882-1969)	花輪俳談会を創立	(花 輪)	
鎌田 露山 (1891-1966)	毛馬内俳句会を設立	(毛馬内)	
◆第 17 次展示 H20.12－H21.11			
山先 青山家の人々	山相家 青山の名を高めた青山庄蔵栄重	(尾去沢)	
山先 川口家の人々	欧米の採鉱技術を学んだ 川口理伸太	(尾去沢)	
◆第 18 次展示 H21.12－H22.11			
瀬川 清子 (1895-1984)	女性民俗学の開拓者	(毛馬内)	
◆第 19 次展示 H23.3－H24.3			
先人顕彰回顧展	浅利佐助他パネル展示		
◆第 20 次展示 H24.10－H25.3			
和井内貞行「没後 90 年展」	十和田湖開発の父	(毛馬内)	
◆第 21 次展示 H25.6－H25.12			
柴田 春光 (1901-1935)	才能をうたわれた若き画家	(毛馬内)	
◆第 22 次展示 H26.8－H27.6			
内藤湖南「没後 80 年展」	東洋史学の開拓者	(毛馬内)	
◆第 23 次展示 H27.6－H28.3			
畠山文象遺墨展	書道の発展に寄与	(毛馬内)	
◆第 24 次展示 H28.4－H29.3			
内藤湖南「生誕 150 年展」	東洋史学の開拓者	(毛馬内)	
◆第 25 次展示 H29.4－H30.3			
岩館 知義 (1925-2016)	郷土鹿角が生んだ風景画の詩人	(大 湯)	
松岡 隆一 (1924-2016)	土着性を追求した画家	(花 輪)	
◆第 26 次展示 H30.4－H31.3			
戊辰戦争の中の鹿角～ 150 年の時を超えて～田中北嶺「戊辰役図絵」			
◆第 27 次展示 H31.4－R元.9			
真澄研究者 内田武志・ハチ兄妹とゆかりの人びと		(尾去沢)	
◆第 28 次展示 R元.10－R2.3			
内田武志・ハチ兄妹と菅江真澄の歩いた鹿角		(尾去沢)	
◆第 29 次展示 R2.4－R3.3			
鹿角に病院を創った湯瀬勇七と小笠原達		(花輪・大湯)	
◆第 30 次展示 R3.4－R4.3			
相馬大作事件と鹿角			
◆第 31 次展示 R4.4－R5.3			
立山家の人々（第四郎・林平・廉吉）		(毛馬内)	

先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ…

◆第 1 次展示 H2.7－H3.6			
瀬川 清子 (1895-1984)	女性民俗学の大家	(毛馬内)	
杉山万喜蔵 (1907-1957)	地域医療に貢献	(尾去沢)	
小田島樹人 (1885-1959)	気品に富んだ作曲家	(花 輪)	
関直右衛門 (1873-1943)	鹿角の観光に新時代を築いた	(八幡平)	
阿部 藤助 (1886-1928)	郷土の興隆に生涯を捧げた	(八幡平)	
◆第 2 次展示 H3.7－H4.6			
小田島由義 (1845-1920)	郡長として殖産興業に尽くした	(花 輪)	
浅井 小魚 (1875-1947)	俳人・大湯環状列石発見者	(大 湯)	
田村 徳治 (1886-1958)	日本行政学の創設者	(花 輪)	
大里武八郎 (1872-1972)	名著「鹿角方言考」の著者	(花 輪)	
渡部 繁雄 (1886-1976)	地域農業の近代化を促進	(八幡平)	
◆第 3 次展示 H4.7－H5.7			
阿部 恭助 (1822-1902)	鉱山日記「阿津免草」の著者	(尾去沢)	
立山第四郎 (1867-1937)	郷土の産業と教育に貢献	(毛馬内)	
川村 竹治 (1871-1955)	育英会を創立した司法大臣	(花 輪)	
諏訪 富多 (1883-1981)	地域産業文化の発展に貢献	(大 湯)	
◆第 4 次展示 H5.8－H6.7			
田中 北嶺 (1838-1918)	「戊辰役図絵」を描く	(毛馬内)	
坂田 祐 (1878-1969)	関東学院設立と教育に献身	(大 湯)	
大里 周蔵 (1884-1965)	町政に尽力した文化人・医師	(花 輪)	
栗山文次郎 (1887-1965)	かづの古代茜、柴根染の大家	(花 輪)	
高杉重右衛門(1889-1964)	地方行政農事に寄与・歌人	(尾去沢)	
◆第 5 次展示 H6.8－H7.9			
浅利 佐助 (1844-1920)	醤油醸造業の基礎を築いた	(花 輪)	
宮城佐次郎 (1881-1951)	教育と地方自治に貢献	(花 輪)	
伊藤 良三 (1883-1964)	教育と町政に尽くす	(毛馬内)	
立山 林平 (1888-1918)	将来を嘱望された天才数学者	(毛馬内)	
阿部 貞一 (1895-1950)	農村電化と観光事業の先覚者	(八幡平)	
◆第 6 次展示 H7.10－H8.9			
児玉 高慶 (1888-1929)	武道を奨励し青少年を指導	(花 輪)	
柴田 春光 (1901-1935)	才能をうたわれた若き画家	(毛馬内)	
阿部 六郎 (1893-1974)	郷土文化の向上に貢献	(花 輪)	
◆内藤湖南生誕 130 年特別企画展 H8－H9			
◆第 7 次展示 H9.10－H10.9			
内田 武志 (1909-1980)	民俗学と菅江真澄の研究	(尾去沢)	
豊口鋭太郎 (1873-1952)	秋田県教育振興に貢献	(毛馬内)	
種市 靈山 (1882-1945)	スケールの大きい気骨の書家	(毛馬内)	
◆和井内貞行生誕 140 年特別企画展 H10－H11			
◆第 8 次展示 H11.11－H12.10			
高橋 克三 (1888-1984)	湖南研究と地域先人の顕彰に尽力	(毛馬内)	
◆第 9 次展示 H12.11－H13.11			
黒沢 隆朝 (1895-1987)	音楽教育と音楽起源の研究	(花 輪)	
大里 健治 (1898-1978)	音楽、郷土芸能の振興に寄与	(毛馬内)	
◆第 10 次展示 H13.12－H14.11			
石田 収蔵 (1879-1940)	北方民族研究の草分け	(花 輪)	
◆第 11 次展示 H14.12－H15.11			
石川 伍一 (1866-1894)	国益に殉じた生涯	(毛馬内)	

立山家の人々（第四郎・林平・廉吉）

2022年度は、毛馬内下小路の立山家の人々を取り上げることにしました。立山家は初代・晶胤が享保年間（1716～36）に宗家から分家し、いつの頃からか紺屋を家業にしていました。今でも染め物の型紙や型板が保存されています。6代周助が分家の菅田佐太郎に紺屋の権利を譲ってからは、地主で養蚕を家業とするようになりました。立山家は、内藤家から立山家の養嗣子となって立山文庫を創設した第四郎、天才数学者と言われて将来を嘱望された林平、立山文庫を継承し、初めて郷土の植物方言を研究した廉吉など多彩な先覚者を輩出しました。現在も私たちがその恩恵に浴している立山家の人々の事績を紹介して、毛馬内の町に残された足跡をたどりたいと思います。

また今年、2022年は、和井内貞行没後100年に当たりますので、和井内貞行の常設展示を一部リニューアルしました。これを機に、幾多の困難を乗り越えて十和田湖のヒメマスの養殖に成功した貞行の偉業とその生涯を、じっくりご覧ください。

展示にあたり、貴重な資料を提供してくださいました立山森夫氏夫妻、和井内貞光氏、小坂町に、厚く御礼申し上げます。

郷土の産業・教育文化に尽力し立山文庫を創設

立山 第四郎 Teishirou Tateyama 1867-1937
たて やま てい し ろう



県内最初の暗渠排水や耕地整理などの農地改良をし「篤農家・第四郎」と謳われ、種苗交換会の花形となった。また有志と十和田湖観光開発や鹿角電灯会社を設立した。第四郎の数多くの功績の中には、立山文庫の創設がある。巨額の私費を投じて書籍を購入し文庫の運営にあたり、さらに現在の移動図書館につながる巡回文庫を始めて地域の青少年や住民に多大な恩恵を与えた。

略歴 a brief personal record

慶応3年（1867）11月3日、内藤周蔵・ミツの二男として毛馬内に生まれる。
明治21年（1888）立山キサと結婚。立山周助の養嗣子となる。
明治41年（1908）立山、内藤両家の小作人組合を設立する。（組合人105名）
明治43年（1910）瀬田石、森崎、西町、七滝地区に暗渠排水や耕地整理等を行う。
明治44年（1911）気象観測、農事奨励の功により、緑白綬有功章受章。
大正2年（1913）夫妻の銀婚式記念事業として、立山文庫を創設する。
大正3年（1914）鹿角電灯株式会社を有志で設立。鹿角一円に電灯が灯る。
大正9年（1920）鹿角自動車会社を勝又清毅と共同で設立。鹿角に初めて自動車が行く。
大正15年（1926）国の華会（和歌の会）創設。和歌を通じて十和田湖宣伝に努める。
昭和12年（1937）8月30日死去。享年71歳。

将来を嘱望された天才数学者

立山 林平 Rinpei Tateyama 1888-1918
たて やま りん ぺい



小学校から東京帝国大学数学科卒業まで首席で通し、神童と謳われた。中学生の時に東京数理学会に入会して高等数学を学び、4年生の時にはスミスの代数学を習得していたという。東大2年生の時、世界的権威のある「ダビットモルレー博士記念数学賞」を授与され、新進数学者として注目を集めた。将来を嘱望されながら30歳の若さで病没した。

略歴 a brief personal record

明治21年（1888）12月18日、周助・リヨの長男として毛馬内に生まれる。
毛馬内小学校、大館中学校、第二高等学校（仙台）、東京帝国大学数学科と進み、すべて首席で通した。
明治45年（1912）東大2年時に「ダビットモルレー博士記念数学賞」を受賞する。
大正3年（1914）第八高等学校（現名古屋大学）数学講師。
大正4年（1915）第五高等学校（現熊本大学）教授。正七位を叙勲される。
12月茂又ケンと結婚。
大正6年（1917）9月長女隆誕生。
大正7年（1918）8月7日死去。享年30歳。

立山文庫を継承した十和田図書館初代館長

立山 廉吉 Renkichi Tateyama 1898-1975
たて やま れん きち



昭和3年（1928）牧野富太郎主筆の『植物研究雑誌』に「秋田県鹿角郡地方に於ける植物方言等の事」を投稿し掲載される。昭和21年、先代第四郎が設立した立山文庫の蔵書約一万冊を毛馬内町に寄贈、町はこれを基に町立毛馬内図書館を創立。昭和24年から42年まで20年近く初代十和田図書館長として、図書館の充実、読書の普及に尽力した。十和田図書館は鹿角市になってから立山文庫継承十和田図書館として受け継がれている。

略歴 a brief personal record

明治31年（1898）4月16日、第四郎・キサの長男として毛馬内に生まれる。
大正8年（1919）北海道帝国大学農学部卒業。
昭和3年（1928）『植物研究雑誌』に「秋田県鹿角郡地方に於ける植物方言等の事」掲載。
昭和7年～19年 毛馬内カトリック教会ブルー神父の「慈栄私塾」講師。
昭和14年～19年 毛馬内産業組合組合長。
昭和21年（1946）立山文庫の蔵書一万冊余りを毛馬内町に寄贈する。
昭和21年～24年 町立毛馬内図書館名誉館長。
昭和24年～42年 町立十和田図書館長。
昭和45年（1970）勲六等瑞宝章を受章する。
昭和48年（1973）『郷土植物方言考』脱稿。
昭和49年（1974）第一回鹿角市文化功労章受章者として表彰される。
昭和50年（1975）4月8日死去。享年77歳。